

オミクロン株流行期に入院を要した 小児COVID-19患者の臨床経過



大阪母子医療センター

森田 可奈子¹、簗智 武志¹、稲田 雄¹、清水 義之¹、
錦戸 知喜²、野崎 昌俊^{3,4}、竹内 宗之¹

¹集中治療科、²呼吸器・アレルギー科、³新生児科、⁴感染症科

【背景】

- 第6/7波のオミクロン株を主体とした新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行では**小児患者の増加**が顕著。
- 小児のワクチン接種は5歳以上を対象に2022年1月より開始されたが5-11歳の**接種率は18.4%***にとどまる。（9/5時点）
- 小児のCOVID-19の経過や予後は医療体制整備やワクチン接種の判断に重要であるが、その情報は不足している。

* https://www.kantei.go.jp/jp/content/nenreikaikyubetsu-vaccination_data.pdf

【目的】

オミクロン株を主体としたCOVID-19について、小児総合病院に入院となった患者の経過・予後を明らかにする。

【方法】

COVID-19の診断で大阪母子医療センターに入院となった患者を対象として後方視的に調査。

除外：産科の患者、術前の検査陽性患者、みなし陽性患者。

調査期間と調査内容

- ① 2022年1-3月：基礎疾患の有無、入院日数、入院の理由
- ② 2022年1-8月：重症度、入院日数、患者背景、予後

【重症度の定義】

軽症：点滴、酸素投与、または対症療法のみ患者。

中等症：非侵襲的陽圧換気（HFNC/NPPV）
ステロイド・レムデシビル投与
原疾患に対する追加の治療を要した患者。

重症：侵襲的人工呼吸療法、急性脳炎・脳症治療を要した患者。

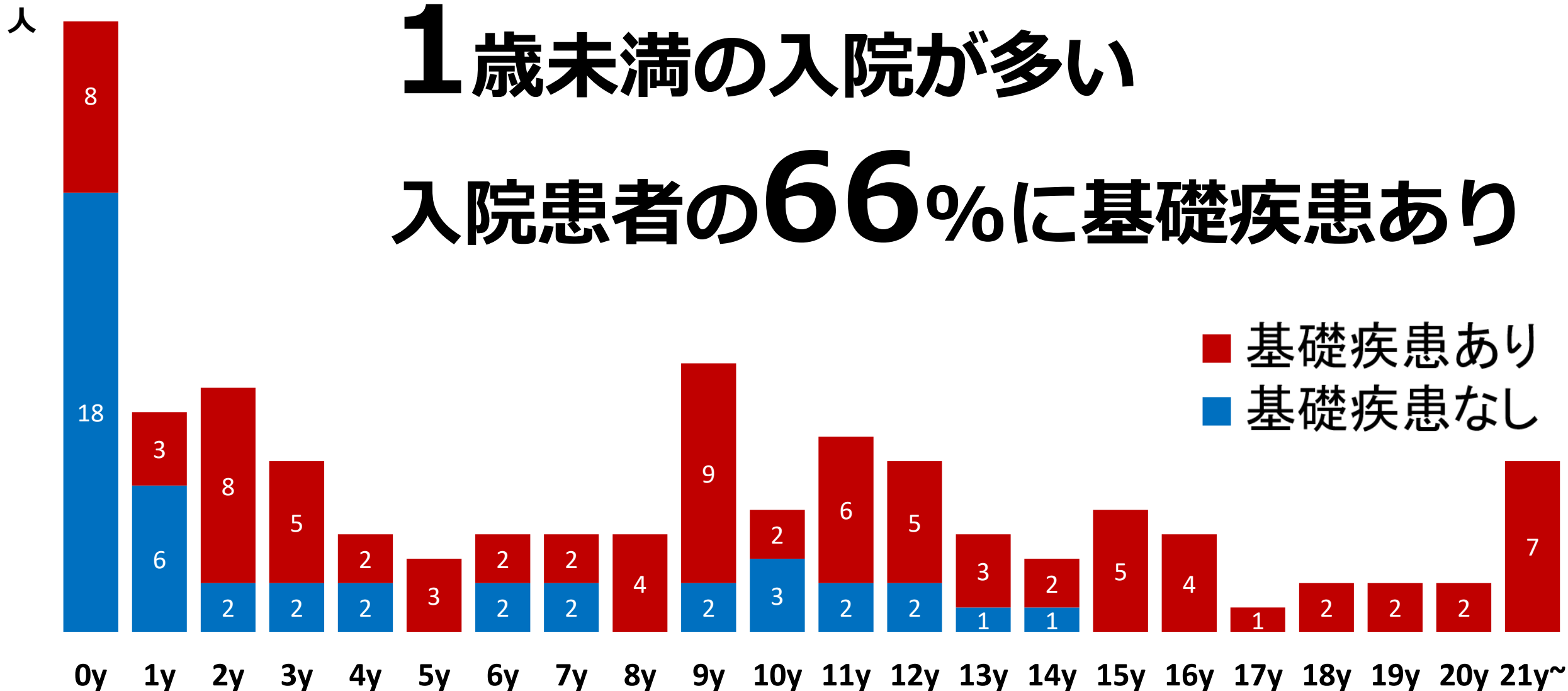
HFNC: High-flow nasal cannula (高流量鼻カニューラ酸素療法)

NPPV: noninvasive positive pressure ventilation (非侵襲的陽圧換気療法)

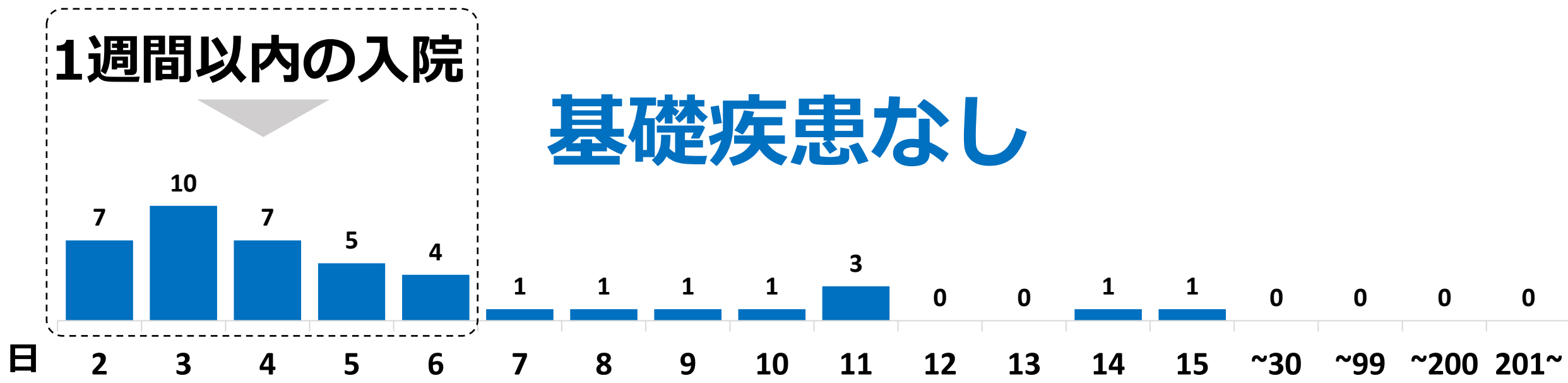
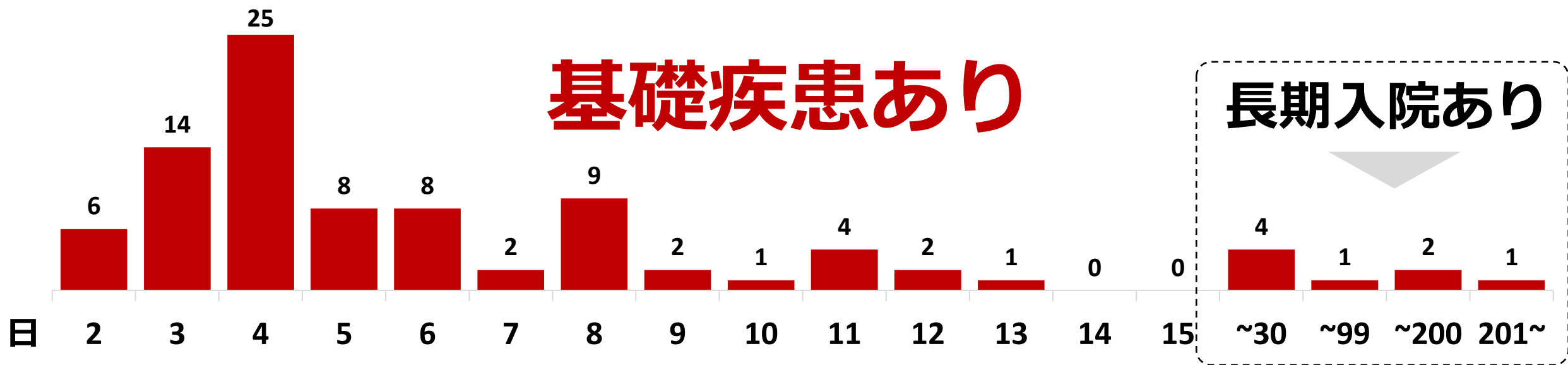
2022年1-3月 入院**132**人 (男90/女42)

1歳未満の入院が多い

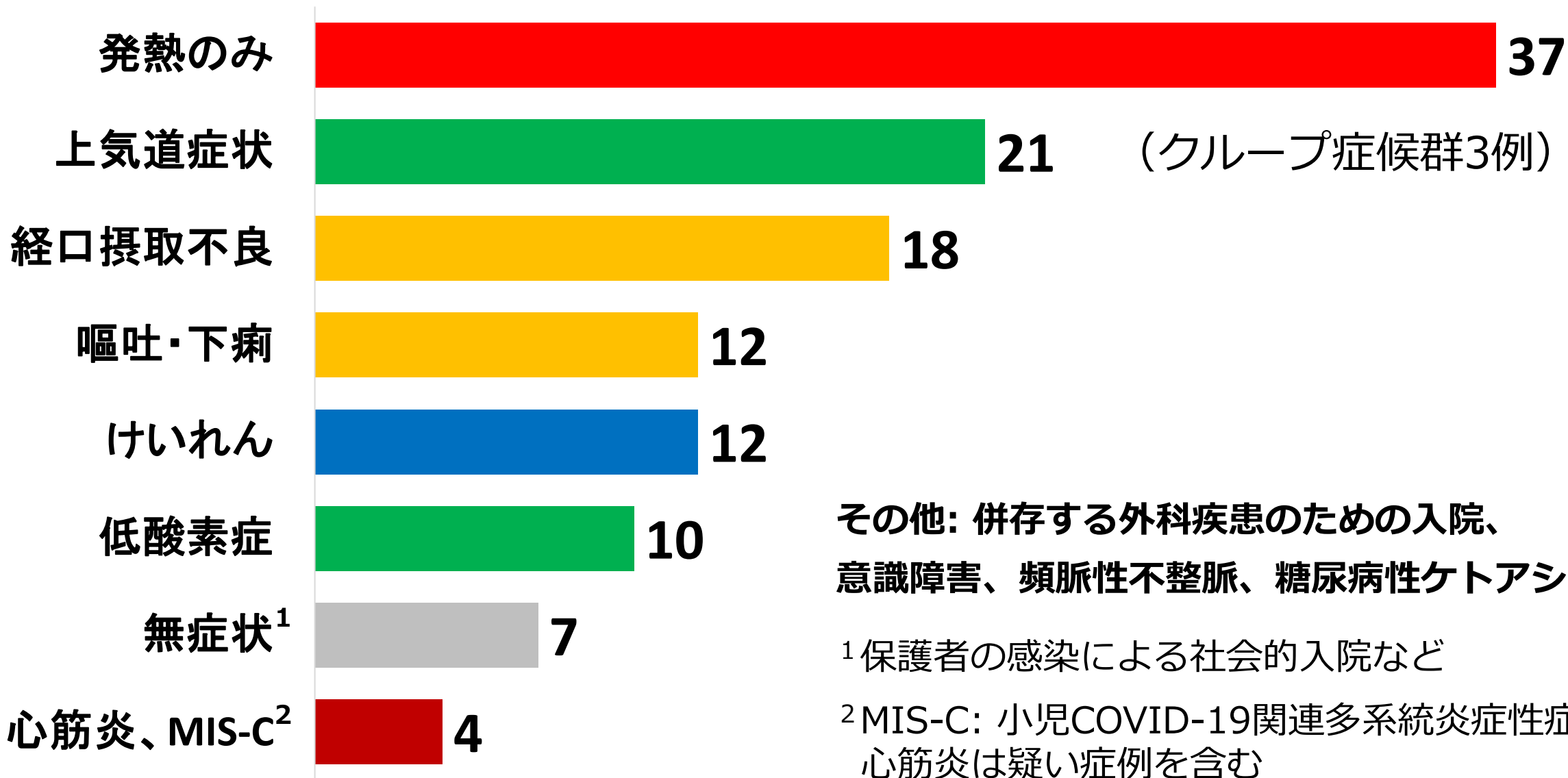
入院患者の66%に基礎疾患あり



入院日数別患者数 (人) 2022年1-3月



入院の契機となった主な症状・疾患



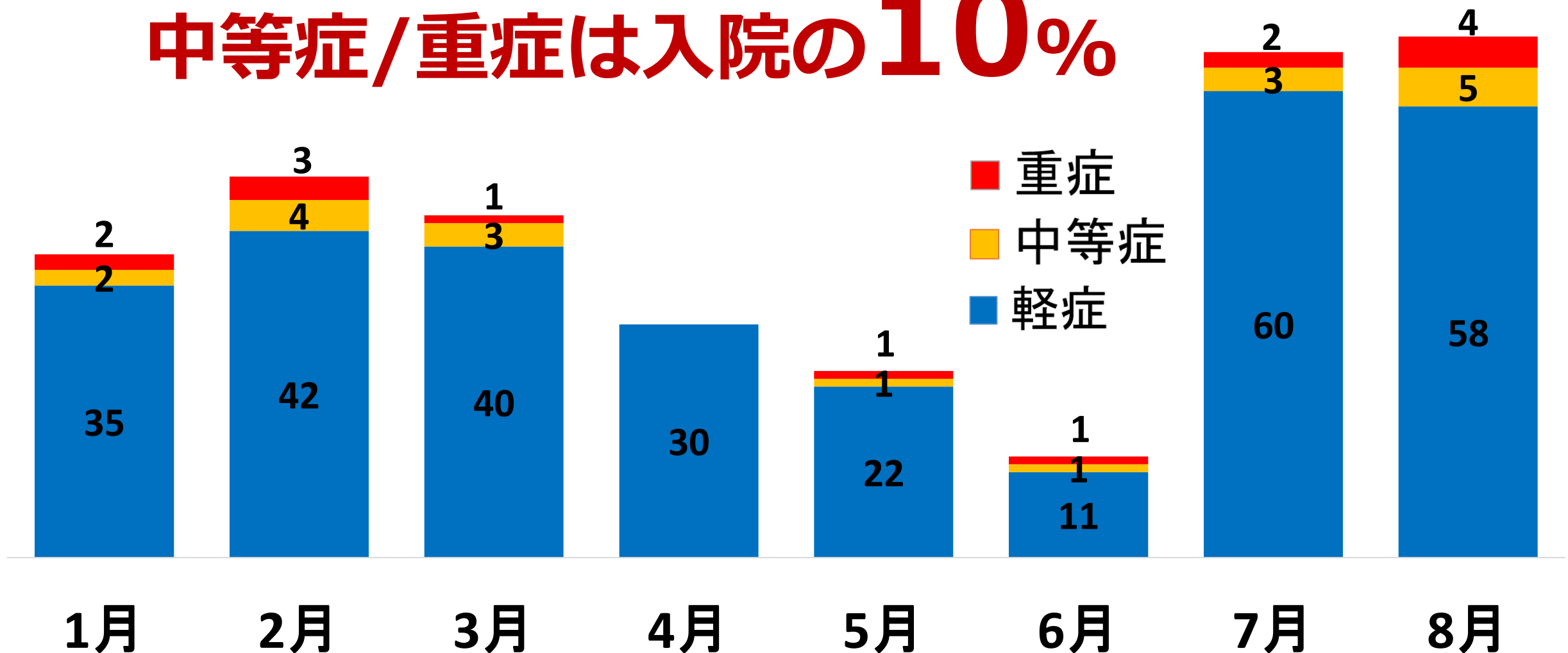
その他: 併存する外科疾患のための入院、意識障害、頻脈性不整脈、糖尿病性ケトアシドーシス

¹ 保護者の感染による社会的入院など

² MIS-C: 小児COVID-19関連多系統炎症性症候群
心筋炎は疑い症例を含む

入院数と重症度の経過 2022年1-8月（入院331名）

中等症/重症は入院の**10%**



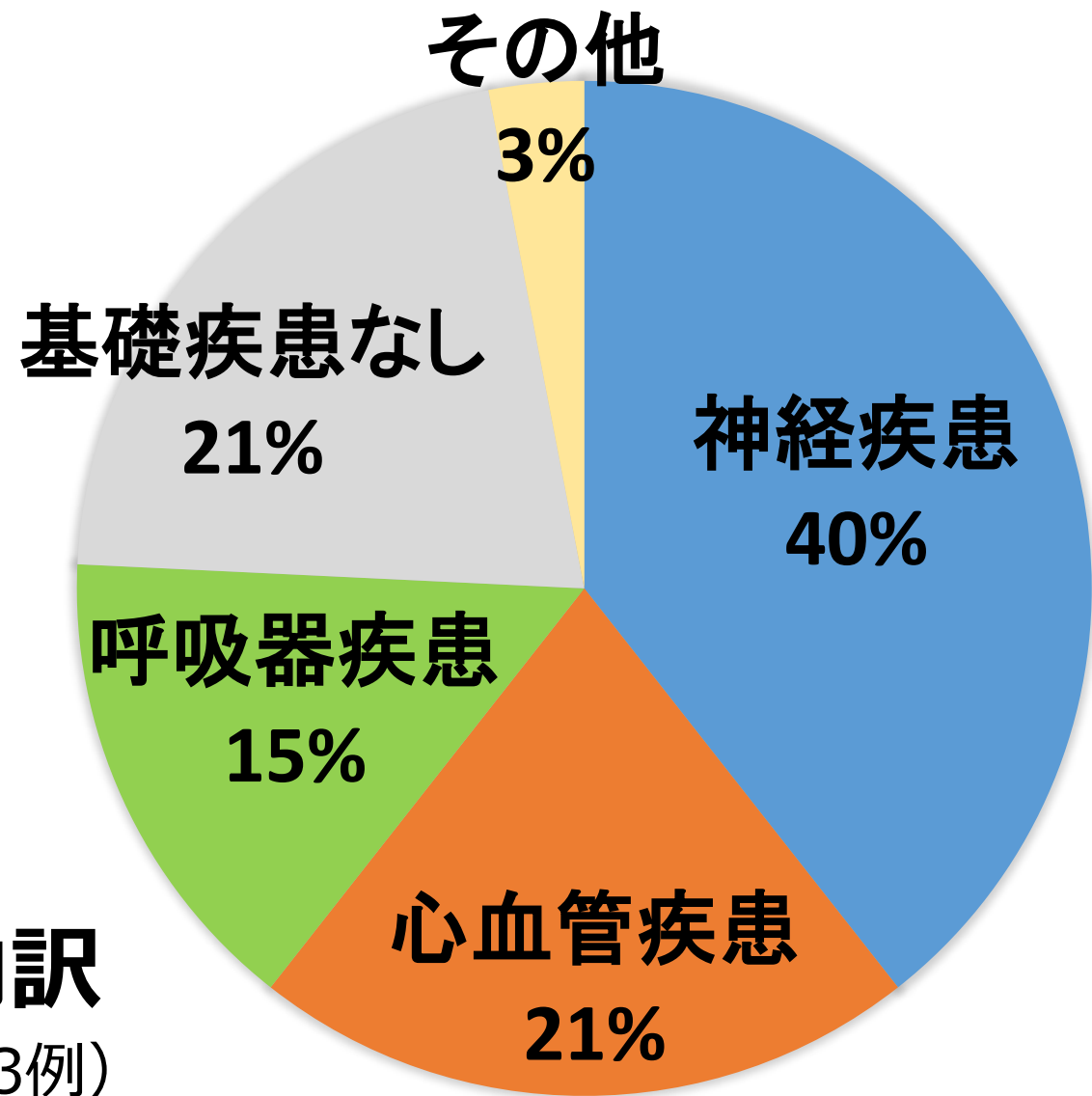
(8月は20日まで)

月別の入院日数 (中央値) 2022年1-8月



中等症/重症の

79%に基礎疾患あり



基礎疾患の内訳

(2022年1-8月 全33例)

基礎疾患のない中等症/重症患者 2022年1-8月

病名	主な治療	入院期間 (日)	転帰
気管支喘息	高流量酸素療法	3	軽快
クループ症候群	人工呼吸	10	軽快
肺炎	高流量酸素療法	16	軽快
MIS-C	免疫グロブリン+ステロイドパルス	7	軽快
MIS-C, HUS	免疫グロブリン+ステロイド	13	軽快
急性脳症	脳保護療法+ステロイドパルス +ビタミンカクテル療法	19	軽度四肢麻痺
急性脳症	脳保護療法+ビタミンカクテル療法	30	軽快

基礎疾患のない患者

- 乳児の**発熱**及び**経口摂取不良**の入院が多かった。
- 入院期間は**4日**（中央値）と短い。
- 急性脳症の**1例**に**後遺症**を認めた。

基礎疾患のある患者

- 15歳以上の入院患者には**全例基礎疾患**があった。
- 一部は**長期入院**となった。
- 2人が**気管切開**・在宅人工呼吸管理となった。

【結語】

第6/7波のオミクロン株流行期における入院を必要とした小児COVID-19患者では

- **乳児の呼吸器症状以外での入院が多い。**
- **中等症・重症は入院の10%であった。**
- **基礎疾患の有無が入院期間や予後に影響。**